

■郷土芸能クラブの卒業生で、現在は保存会員。

■郷土芸能クラブの新井さん(左)・中山くん(右)に突撃インタビュー！

Q. 始めたきっかけは？

中山くん：高須賀に住んでいるのでやってみたら？と勧められました。(4年生から始めて、3年目)

新井さん：4年生の頃にやってみて、楽しかったので6年生でまた入りました。

Q. 御囃子の出来はどうでしたか？

中山くん：練習よりも上手くできてよかったです！

新井さん：疲れたけど、楽しくできました！

Q. つぎの大きな舞台はありますか？

中山くん：郷土芸能大会があるので、また頑張ります！

■妹と弟が太鼓を叩くので、応援に来たお姉さん(左：郷土芸能クラブの卒業生)。自宅で、妹弟に太鼓の叩き方を教えているそうです！

高須賀大杉ばやし

市指定文化財(無形民俗文化財)
(Osugi Bayashi of Takasuka)



八つの耕地(本村・前一・前二・岸内・四ツ谷・下手・香取・松原)を回りながら、高須賀大杉神社まで行きます。※令和元年7月7日(日)に実施。

大杉ばやしの由来は、高須賀の集貝家の祖先が高須賀池に舟を浮かべて漁をしていたと、大杉様の御神霊が舞い降りてきたため、祀るようになったと言われています。
現在は、高須賀の全戸が大杉ばやし保存会と御神輿保存会を組織して、祭礼の維持存続に努めています。
御囃子は、笛・大太鼓・小太鼓・鉦で構成され、「道中ばやし」「みだればやし」を演奏し、繁栄や悪疫退散、害虫駆除、風水害からの無事を祈願するものとなっております。別名、あんばやしとも言われており、毎年7月第1日曜日に行われています。
..... 間近で見る「郷土芸能」.....
本紙10月号でお知らせしますが、西公民館で「郷土芸能大会」が開催されます。高須賀大杉ばやし保存会、松石ささら獅子舞保存会による、歴史ある伝統芸能を、間近で見られる良い機会です。ご覧になってみてはいかがでしょうか？



田中 義勇さん (93)
高須賀大杉ばやし保存会顧問
(昭和60年5月設立)
..... 大杉ばやしへの思いをお伺いしました。

保存会設立前は、父が60年笛を吹いていて、後継者を育てるために笛の音を録音したり、笛を10本用意して10人に声をかけて、毎日自宅で練習をしたんです。楽譜がないので、耳から聞いた御囃子をまねするように、ひたすら笛を吹くという方法で、結果的に3人柿沼さん・南川さん・息子の田中さんの後継者ができました。

大杉ばやしは、笛が主となり、太鼓、鉦の奏者がお互いを感じ合いながら演奏します。ときどき曲調が変わることもある。だから奏者も楽しいし、見ている人も楽しくなる御囃子です。

行幸小学校の、郷土芸能クラブ発足も良かったです。当時の佐藤一夫校長(平成5年4月〜平成10年3月)が、郷土芸能大会を見て「児童と一緒にできないか？」と相談されたことがきっかけで、平成7年に郷土芸能クラブが発足しました。その1期生が教員となり、保存会の一員にもなっているんです。

大杉ばやしをなくしたくないという思いから、地域のみなさんと協力し、保存活動をしてきました。今では、受け継いでくれる人が育っていますし、みんなが楽しくやっています。

高須賀地区に、御囃子が今も続いている...。本誌にありがたいことです。



スマホでQRコードを読み込むと...、御囃子の一部が聞こえます。

市ホームページ・ちいき本棚・マチイロ(スマホアプリ)では、カラーで掲載していますので、ぜひご覧ください。



人から人へ、伝統芸能の今